

インフルエンザ - 昨シーズンの流行 -

(1) 昨シーズンの流行の特徴

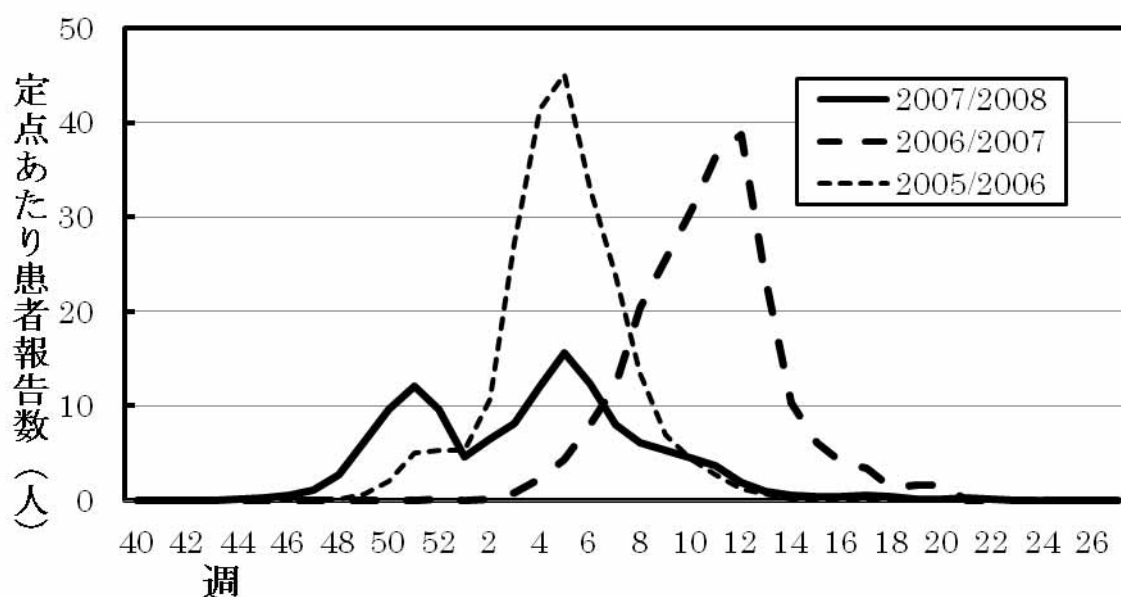
県内における昨冬(2007/2008 シーズン)のインフルエンザ流行は、流行の始まりは早かったが、規模は小さかった(下図参照)。流行の主流となったウイルスは A/H1N1 亜型(A ソ連型)であった。また、シーズン後半には A/H3N2 亜型(A 香港型)の分離が6月まで続いた。という特徴があげられます。

(2) オセルタミビル耐性ウイルスの出現状況

国内及び世界各地で、A/H1N1 亜型の分離ウイルスの中から、オセルタミビル(タミフル)に対して耐性を持つウイルスが出現していることが確認されました。

県内の昨シーズンの全分離ウイルス(A/H1N1 亜型 47 株、A/H3N2 亜型 16 株、及び B 型 7 株)からは、耐性ウイルスは認められませんでした。

インフルエンザ患者報告数



他県では、夏季にも学校での集団発生例や海外渡航者からのインフルエンザウイルス分離例が数多く報告されています(下記 URL 参照)。また、上に述べたオセルタミビル耐性ウイルスが今後どのような拡がりみせるのかを慎重に監視する必要があります。さらに、新型ウイルスの発生を速やかに探知する体制の準備も怠ることができません。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取の御協力をお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html>)でご覧になれます。